

飯塚急患センター運営協議会協議報告書

急患センターの運営のあり方について  
(案)

2022年3月

## 1.はじめに

本協議会は、新型コロナウイルス感染症により急患センターの運営環境の見直しが必要になったこと、さらには国の働き方改革により、医師の勤務時間の制限が明確になったことで、飯塚医療圏の時間外診療体制の見直しが必要となったことから、今後の方向性について協議を行った。特に小児科の時間外診療は、実施医療機関が少ないため今回先行して協議を進めた。内科の対応については、小児科の課題解決後に協議を行う。

## 2.協議経過と委員

本協議会は2021（令和3）年度の12月から3月にかけて医療、保健行政の関係者で3回の協議を行った。

期 日	協 議 内 容
12月2日	① 急患センター現状と課題について ② 飯塚病院の小児時間外診療の現状と課題について ③ 今後の協議スケジュールについて ④ 他地域の急患センター運営状況について
1月27日	① 飯塚病院小児時間外診療見直しによる急患センターの運営のあり方について 開設場所、移行時期、診療科目、開設時間、医師確保
3月24日	① 報告書取りまとめ

氏 名	役 職	
西園 久徳	飯塚医師会会長	会長
岩見 元照	飯塚医師会副会長	
肘井 孝之	飯塚医師会専務理事	
野見山 祐次	飯塚医師会副専務理事	
岡松 由記	飯塚病院院長（代理出席）小児科部長	
武富 章	飯塚市立病院管理者	
川原 明子	福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所保健監	副会長
西野 豊彦	西野病院院長	
森田 潤	こどもクリニックもりた院長	
石松 香織	嘉麻市健康課長	
川野 寛明	桂川町健康福祉課長	
久家 勝行	飯塚市市民協働部長	

### 3.本医療圏域の時間外診療体制の現状

飯塚医療圏は、下記の表に示しているように、急患センターと地域の医療機関が連携を取り体制を整えている。小児の時間外診療は急患センターと飯塚病院の2か所のみとなっている。

診療科	一次救急	2次救急		3次救急
		(告示病院)	(輪番制病院)	
小児科	飯塚急患センター(夜間) 飯塚病院 当番医(日祝)	飯塚病院		飯塚病院で 初期対応後 に圏外へ搬 送
内科	飯塚急患センター(夜間) 飯塚病院 当番医(日祝)	飯塚病院 飯塚市立病院 済生会飯塚嘉穂病院 嘉麻赤十字病院 西野病院	明治記念医院 児嶋病院 共立病院 社会保険稲築病院 鎌田病院 健康リハ内田病院	飯塚病院
外科 その他	飯塚病院 当番医(日祝)	飯塚病院 飯塚市立病院 済生会飯塚嘉穂病院 嘉麻赤十字病院 西野病院	明治記念医院 児嶋病院 共立病院 社会保険稲築病院 鎌田病院 健康リハ内田病院	飯塚病院

### 4.飯塚急患センター現状と課題

#### ①診療日・診療時間

診療日	診療時間
平日	19:00~21:00
土曜日、日曜日および祝日 盆期間(8月13日から8月15日)	18:00~22:00
12月31日~1月3日	14:00~17:30 18:00~22:00

#### ②建物概要

項目	概要
開設年月日	2015年7月1日
開設場所	飯塚市吉原町1-1 サンメディラック飯塚2階
構造	鉄筋コンクリート造

延床面積	専用部分面積 227.22 m <sup>2</sup> 共有部分按分面積 225.63 m <sup>2</sup> 共有比率飯塚市：37.33% 医師会：62.67%
設備	○診療室 2（内科 1、小児科 1） ○観察処置室 1 ○薬局 1 ○事務室 1 ○医局 2 ○一般撮影室 1 ○エックス線 TV 撮影室 1 ○点滴室 1

### ③受診状況

急患センターは、例年インフルエンザなど感染症が流行する冬期に多くの受診がある。新型コロナウイルス感染症の影響を受け2019年3月より大幅に受診者が減少した。

年度	診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開設日数	1日平均
2016	内科	114	129	68	106	69	87	60	96	148	261	230	141	1,509	365	4.2
	小児科	272	263	163	220	151	132	185	172	207	320	323	192	2,600	365	7.1
	合計	386	392	231	326	220	219	245	268	355	581	553	333	4,109	365	11.3
2017	内科	105	115	82	81	85	83	73	85	147	392	276	142	1,666	365	4.6
	小児科	202	196	143	166	178	149	147	125	254	461	319	222	2,562	365	7.0
	合計	307	311	225	247	263	232	220	210	401	853	595	364	4,228	365	11.6
2018	内科	117	98	68	87	75	76	79	79	182	580	162	123	1,726	365	4.7
	小児科	166	177	155	151	167	173	124	138	257	478	219	182	2,387	365	6.6
	合計	283	275	223	238	242	249	203	217	439	1058	381	305	4,113	365	11.3
2019	内科	108	125	75	70	86	82	112	130	191	259	115	46	1,399	364	3.8
	小児科	169	159	147	141	165	145	151	224	307	237	150	62	2,057	364	5.7
	合計	277	284	222	211	251	227	263	354	498	496	265	108	3,456	364	9.5
2020	内科	23	27	24	21	39	27	29	31	22	29	25	23	320	366	0.9
	小児科	18	39	29	51	71	46	60	57	53	40	44	41	549	366	1.5
	合計	41	66	53	72	110	73	89	88	75	69	69	64	869	366	2.4

### ④課題

- (1) 圏域内の人口減少、少子化による患者の減少。それに伴う運営継続の課題
- (2) 新興感染症や発熱外来を実施する上での物理的課題
  - ◎ 狭隘な待合室、診察室
  - ◎ 受診者とマンション住民との動線の区切りができない。
  - ◎ 発熱者への診療課題
- (3) 医療スタッフ確保の課題
  - ◎ 1歳未満児に対する診療課題
  - ◎ 小児科を標榜する医師の減少

## 5. 医師の働き方改革による勤務体制の見直し

多様な働き方を選択できる社会へ向けた「働き方改革関連法」が2019年より施行され、医師の働き方改革の取り組みである、時間外労働時間の上限規制が2024年4月から適用開始となる。この規制により、医師の健康確保のために「勤務間インターバルの確保」や連続勤務時間の制限などが義務づけられる。

これら、国の法改正により、筑豊地区の1次から3次救急を担っていた飯塚病院も、医師の勤務体制の見直しが急務となり、本来的な役割である2次と3次救急への集約が必要となった。特に飯塚病院の小児時間外診療は、現在でも準夜帯は地域の診療所の小児科医師が交代勤務で対応している状況であり、早急な見直しと代替機能の検討が必要である。

また飯塚病院以外の医療機関でも医師体制の見直しが行われることから、医師確保のためには圏域外の大学病院勤務医師との連携も早急な課題となる。

### 参考) 医師の時間外労働の上限

#### 【A 水準】すべての医師

〈対象〉診療従事勤務医

〈上限〉年 960 時間以下／月 100 時間未満（休日労働含む）

#### 【B 水準】地域医療暫定特例水準

〈対象〉救急医療など緊急性の高い医療を提供する医療機関

〈上限〉年 1,860 時間以下／月 100 時間未満（休日労働含む）

#### 【C 水準】集中的技能向上水準

〈対象〉初期臨床研修医・新専門医制度の専攻医や高度技能獲得を目指すなど、  
短期間で集中的に症例経験を積む必要がある医師

〈上限〉年 1,860 時間以下／月 100 時間未満（休日労働含む）

## 6. 今後の急患センター方向性

医師の働き方改革の施行が、2024年4月であることから、急患センターと飯塚病院との役割を明確にし、1次救急は、急患センターが担い、飯塚病院は2次救急を担い、小児地域医療センターとして、小児専門医療、小児入院診療、新生児医療を維持することを前提に早急に検討すべきである。なお、本協議会での協議した方向性は下記のとおりである。

### ① 開設場所の方向性

急患センター（内科、小児科）と飯塚病院の小児時間外診療の患者の合計は下記図のとおりであり、現状の急患センターでは、診察室、待合室、駐車場などのスペースが手狭となり、感染症への対策が取れないなど多くの課題がある。そのため、小児科は別に

開設する必要がある。

新たに開設するには、医師以外の医療従事者や医療設備の確保、受診者へのサービス低下を招かないために、次のような要件を満たす医療機関に併設することが望ましい。

- ◎救急医療のノウハウがある医療機関であること
- ◎駐車場、診察室、待合室のスペースが十分に確保できる医療機関であること
- ◎住民等の利便性、認知度が高い医療機関であること
- ◎検査器具等がそろっている医療機関であること
- ◎小児科の医薬品が取り扱える医療機関であること
- ◎小児科に習熟した看護師、薬剤師の配置が可能な医療機関であること

### 飯塚病院と急患センター(内科・小児科)時間帯別患者受入れ状況(一日平均)

2018年度一次救急患者の受け入れ実績より

時間帯		8時30分～17時	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	0:30～8:30
平日利用 見込	飯塚病院		4.62人						2.83人	
	急患センター		6.12人							
土曜日利用 見込	飯塚病院	7.37人	14.71人						3.12人	
	急患センター		19.51人							
日祝日利用 見込	飯塚病院	13.61人	16.25人						5.61人	
	急患センター		20.88人							

### ② 開設時間の方向性

本来は、深夜帯までの診療が望ましいが、大学病院医局、地域診療所からの応援により医師を確保するには、前述の働き方改革の新規制にある、「次の勤務始業まで9時間の連続した休息時間確保する」を考慮すると23時30分には診療を終了する必要がある。また平日における診療開始は、遠方からの応援、地域診療所の医師も18時まで自らの診療所を開設しているため19時30分が妥当である。

また、飯塚病院の時間帯別の受付の状況は下表のとおりであり、比較的19時から22時の時間帯に受付する受診者が多くなっている。

なお、未開設の時間帯の対応は、内科の2次救急医療機関との連携、(※1)子ども医療電話相談事業(＃8000)の活用が必要である。

#### 開設時間(案)

診療日	受付時間	診察時間
平日	19時～23時	19時30分～23時30分
土日祝	17時30分～23時	18時～23時30分
年末年始昼	13時30分～17時	14時～17時30分
年末年始夜	17時30分～23時	18時～23時30分

2018年飯塚病院小児科時間外外来受診患者 時間帯毎人数

時	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
8	9	6	6	5	7	5	8	4	9	6	1	4	70
9	14	4	8	5	13	4	9	15	16	5	12	13	118
10	20	25	14	12	14	6	12	19	16	10	11	27	186
11	30	19	17	11	13	11	21	9	17	5	12	20	185
12	20	12	15	9	12	11	6	7	16	3	9	16	136
13	19	18	8	6	24	11	15	9	8	3	6	20	147
14	36	16	16	10	10	13	15	17	13	10	6	11	173
15	35	16	11	17	19	7	12	12	15	14	8	19	185
16	48	24	23	14	29	18	21	27	19	14	12	27	276
17	54	38	23	33	41	29	32	28	36	27	22	30	393
18	50	48	31	39	55	29	52	39	38	40	26	40	487
19	73	57	47	51	51	47	54	52	39	37	29	54	591
20	55	55	57	54	56	55	57	49	40	37	54	39	608
21	71	44	55	51	44	47	62	38	49	36	44	43	584
22	69	37	53	62	49	41	44	50	48	36	39	49	577
23	51	32	43	39	40	23	40	51	46	26	41	40	472
0	39	23	24	24	28	24	28	37	28	20	31	34	340
1	25	15	18	30	26	14	16	19	21	15	17	24	240
2	26	17	19	25	17	11	18	22	18	11	20	27	231
3	13	11	15	14	17	17	11	20	7	11	8	13	157
4	6	5	7	10	11	6	9	8	3	7	8	8	88
5	8	5	7	3	9	3	5	6	12	6	12	8	84
6	9	10	7	6	14	9	5	7	6	6	2	6	87
7	6	9	6	6	8	7	4	5	5	8	5	5	74
合計	786	546	530	536	607	448	556	550	525	393	435	577	6489

※1 こども医療電話相談事業とは、保護者が、休日・夜間のこどもの症状にどのように対応したらよいのか、病院を受診したほうがよいのかなど判断に迷ったときに、小児科医師、看護師に電話で相談できる事業

③ 医療従事者の確保

飯塚病院の小児外来の年齢別受診者数は下表のとおりで、1歳以下が40%をしめる。症状別では、ほとんど外来対応で、入院や高度医療に引継ぎケースは約6%となっている。1歳未満児の診察が可能な医師を圏域で確保することは困難であ

る。複数の大学医局との連携が不可欠である。行政、医師会、実施医療機関が連携して早急に医師の確保に努めることが重要である。

看護師、薬剤師も小児医療に関する知識と経験を有する人材の確保を早急に行い飯塚病院との引継ぎなど事前準備が必要である。

#### 2018年飯塚病院小児科時間外外来受診患者 年齢別人数

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
人数	1403	1323	760	607	403	331	271	246	181
構成比	21.6%	20.4%	11.7%	9.4%	6.2%	5.1%	4.2%	3.8%	2.8%
年齢	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳～	合計
人数	194	154	155	143	123	122	69	4	6489
構成比	3.0%	2.4%	2.4%	2.2%	1.9%	1.9%	1.1%	0.1%	

#### 2018年飯塚病院小児科時間外外来受診患者 症状別人数

受診者総数	重症度			転帰	
	一次	二次	三次	入院	外来
6,182	5,827	353	2	375	5,807
構成比	94.3%	5.7%	0.0%	6.1%	93.9%

#### 7.まとめ

今般の新型コロナウイルス感染症の流行により、医療機関でも院内感染が発生した。その中で、救急医療を担う医療機関での院内感染は、この地域の市民の命や健康を脅かすことになる。従って、核となる救急医療機関は複数確保できることが重要である。今回の小児の時間外診療を飯塚病院と急患センターで役割を分担して開設することは、リスク分散にもつながると考えている。

今回は、協議対象としなかった内科についても、働き方改革や救急体制のリスク分散の視点から、本協議会としては引き続き検討すべき事項と考えている。